

補足； 評価シート

評価シートのねらい

自らの業務内容を確認・検証するプロセスを通して「気づき」を得て現場の実践力の向上に役立てる。

「評価シート」の構造

前半：フェイスシート

自身のプロフィール、就業実態・実感、組織環境等

後半：基本的姿勢と各レベルごとの評価項目

「地域レベル」（13項目）

センターとして働きかけを行う圏域内、所在自治体の地域住民、関係機関、行政等

「組織レベル」（23項目）

センターとして業務を遂行する上でかかわりのある、センター3職種、センター組織全体、法人等

「個別レベル」（19項目）

センター業務の中で個別にかかわるすべての個人

評価シート: 抜粋

〔評価の目安〕 5かなりできている 4ある程度できている 3どちらともいえない
 2あまりできていない 1できていない

地域とは.....センターとして働きかけを行う、圏域内、所在自治体の地域住民、関係機関、行政等を想定しています。

〔地域レベル〕

No.	項目	自己評価	自己評価の根拠 (具体的に記載)	評価の着眼点(例)
1	地域に対して、センターについての理解が深まるように働きかける	5 4 3 2 1		<ul style="list-style-type: none"> ・働きかけの内容・方法 ・認知度
2	地域住民のニーズを把握する	5 4 3 2 1		<ul style="list-style-type: none"> ・統計資料、計画書、報告書等 ・地域への訪問 ・地域住民との懇談(個別訪問、会合参加) ・アンケート調査
3	地域の社会資源を把握する	5 4 3 2 1		<ul style="list-style-type: none"> ・統計資料、計画書、報告書等 ・地域への訪問 ・関係者・関係機関からの情報収集
4	地域の住民、組織、機関から情報が得られるようにする	5 4 3 2 1		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・認知度
5	地域の課題について、地域住民とともに理解を深めるための取り組みを行う	5 4 3 2 1		<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有化 ・学習(地域住民・専門職双方) ・啓発

対面方式による「評価シート」の活用方法

- フェイスシートの記入
- 「総合相談支援業務」を行うにあたっての基本的姿勢の言語化
- 評価項目ごとの自己評価と根拠の明確化
- レベルごとの課題の明確化
- 全体を書き終えての気づきの言語化
- 記入済みシートを用いた、対面方式による実践のふりかえり

「自己評価ワークブック」の活用方法

①チェックシートで日頃の自分の取組を評価する

②ワークシートを記入して実践を言語化する

③あらためて、自己評価をする

④解説を読んで学習を深める

⑤ワークシートと自己評価の振り返りをする

⑥「気づき」を得て、今後の取組目標を確認する

実践力アップ!

具体的行動